

教室内的関係性を考慮に入りたいじめ問題の検討 —いじめ問題と傍観者およびスクールカーストとの関連—

岸 俊行 (福井大学)

<問題・目的>

近年、学校現場における「いじめ問題」が大きな社会問題化している。いじめ問題に関して、従来、当事者間の関係性や加害者の心理状況、環境などについて検討し、被害生徒をどのように支援していくのかという観点での研究など、これまでの学校現場では、いじめに関しての対症療法的なアプローチが多くみられている。しかし、いじめを構造的に理解するという点では森田 (1986) が指摘しているように、被害者と加害者のみならず、被害者と加害者を取り巻く周囲の要因も重要になる。いじめ問題をいじめの加害者と被害者の問題のみでとらえるのではなく、その周囲にいる人々 (傍観者) も含めた子どもたちの関係性の問題という視点で考える必要がある。

これまで、学校場面の問題を、児童生徒の関係性の視点から明らかにした研究はいくつかなされている。大久保・加藤 (2006) は問題行動を起こす児童生徒がクラスから受容的、支持的であるほど学級が荒れている傾向にあると指摘している。また、森口 (2007) は教室内的子ども同士の関係性をより緊密に表現したものとして「スクールカースト」という言葉を用い、クラス内での子どもたちの関係性を規定するステイタスとした。鈴木 (2010) はこの「スクールカースト」が、閉ざされた教室内での人間関係を規定する要因となっており、クラス内での人間関係が、「スクールカースト」に大きく影響されることを示唆している。本研究では、いじめ問題を、当事者を含む周囲の関係性の問題として捉える視点で、いじめ問題を考えていく事を主眼としている。そこで、本研究では下記の2点を明らかにすることを目的とした。一つにいじめの当事者ではない傍観者に着目し、その特徴を検討した。二つに教室内での人間関係としてスクールカーストに着目し、スクールカーストとの認知およびいじめとの関連の検討を行った。

<方法>

対象：関東、甲信越の大学に通う大学生 393 名 (男性 225 名、女性 168 名)、平均年齢は 19.8 歳 (SD : 1.738)

実施時期：2013 年 6 月～9 月の期間

質問紙の構成

- ・いじめ経験の有無：いじめをした、された、見た、の 3 つの経験に関して 2 件法
- ・いじめを目撃した際の対処行動に関する質問：6 場面、2 条件 (いじめ対象が【友人】【他人】) での場面想定法を採用した。回答は 4 つの選択肢を用いた。

- ・傍観者認知尺度：渡部 (2000) の傍観者意識尺度を参考に 23 項目を用いた。回答は 4 件法を用いた。
- ・集団主義尺度：ヤマグチら (1995) の集団主義尺度 14 項目 (1 因子) を用いた。
- ・スクールカーストの認知及び意識：スクールカーストについての実態および認識についての回答を求めた。実態に関しては、中学 3 年、高校 3 年時の自分の意識を「1 軍、2 軍、3 軍、意識したことがない」の 4 件法で回答を求めた。また、認識については、11 の質問項目を用意し、5 件法で回答を求めた。

<結果>

1. 「いじめ」の概要と傍観者との関連

いじめ経験の概要に関しては、いじめをした、された経験のある人数はどちらも全体の約 30% であるのに対して、いじめを見た経験のある人数は約 67% であった。このことより、学校生活の中で多くの学生が何かしらのいじめに関わっていたことが示唆できる。次にいじめの対象が友人か否かによって、介入行動に差が生じるかの検討を対応のある χ^2 検定で行った (表 1) 結果、6 つの場面全てにおいて、いじめの対象が友人の場合の方が行動を起こしやすいという結果となった。

2. スクールカーストの認知といじめとの関連

スクールカーストに関して、中 3、高 3 時点で意識したことのある学生は、どちらの時期も約 50% であった。また、意識したことのある学生の中では、中学高校ともに 2 軍 > 1 軍 > 3 軍の順で人数が多かった。いじめ経験とスクールカーストとの関連を検討するため、いじめ経験 (4) $\times$ スクールカースト (4) で χ^2 検定を行った。その結果、中学高校とも 5% 水準で有意な関連が認められた (中学: $\chi^2(9)=23.336, p<.05$ 高校: $\chi^2(9)=21.182, p<.05$)。残差を検討した結果、中学よりも高校の方がより、スクールカーストといじめとの関連が明確化していることを指摘できる。以上の結果より、スクールカーストといじめの経験とは関連があることが推察される。

表 1 いじめ経験における対象の違いにおける介入行動の差異

		N	M	SD	χ^2 値	自由度	有意差
場面1	友人	397	2.55	.999	12.346	396	***
	他人	397	2.08	.915			
場面2	友人	395	2.58	.905	14.083	394	***
	他人	395	2.04	.825			
場面3	友人	397	3.13	.937	16.637	396	***
	他人	397	2.21	.940			
場面4	友人	396	3.10	.875	16.572	395	***
	他人	396	2.30	.998			
場面5	友人	398	3.05	.943	17.062	397	***
	他人	398	2.20	.860			
場面6	友人	398	3.54	.921	15.229	397	***
	他人	398	2.79	.955			

*** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$